

研究主題

防災教育でつながる学校・家庭・地域の輪

～生徒と共に学び、Well-being を実感できるさいたま STEAMS 教育～



令和7年10月28日(火)
さいたま市立八王子中学校



I 研究デザイン

(1) 本校の学校教育目標

大志を抱け、ひとみ輝く八中生 ～ 賢く 豊かに 逞しく ～

(2) 本校の安全教育目標

適切な判断のもと安全に心がけた行動ができる生徒を育てる

(3) 本校の総合的な学習の時間における教育目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域・社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにする

(4) 研究主題設定の理由

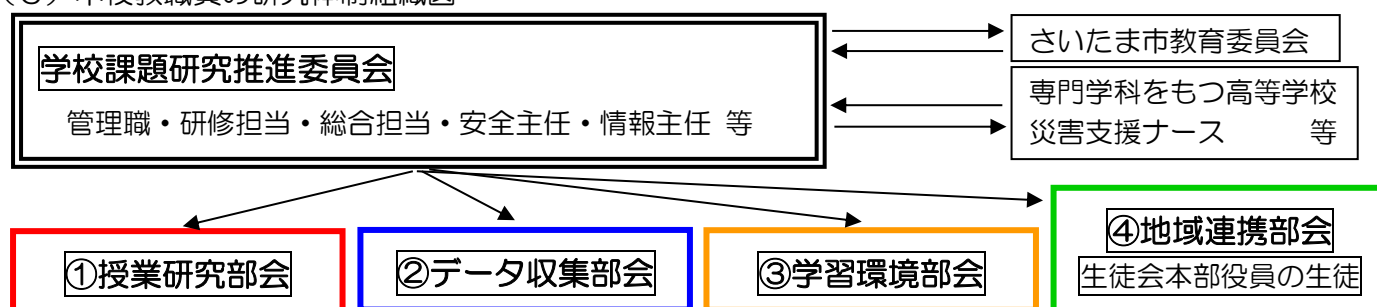
本校は荒川の氾濫を想定すると水害の大きな被害に遭う可能性がある地域であるが、我々教職員や生徒は実感をあまりもてないでいるため、通常の防災教育における避難訓練等の実施で終わっていることが課題の一つである。そこで、本校の総合的な学習の時間において他地域の防災実践を自分達の地域の防災へとつなげられるような取り組みが必要であると考えた。

そのため、災害支援ナースや専門学科をもつ高等学校による講演会等を実施し、災害や防災・減災への知識、自助・共助・公助への意識を得ることで「災害に強いまちづくり」というテーマで実体験を伴った防災教育を実践しようと考えた。そして、取組みを PTA やコミュニティスクールの方々にも参観していただくことによって、防災意識の輪が学校から家庭・地域にまで広がっていくことを願い、主題を設定した。

(5) 研究イメージ図



(6) 本校教職員の研究体制組織図





Ⅱ 本校の実践

1 授業研究部会

(1)

1、これまでの授業実践

1年次の総合学習では、「よりよい未来のために…私たちにできる防災を考えよう」というテーマで、「防災とは何か」から学び始め、災害の種類について調べ学習を行った。地震、台風、大雪などの中から、班で興味を持ったものを選択し、パワーポイントでまとめ資料を作成して発表会を行った。校外学習では東京消防庁本所防災館へ赴き、地震・大雨・火災などの様々な体験活動を行った。また、出前授業として災害支援ナースやNHKアナウンサーによる講演会に参加した。2年次では、「災害に強いまちづくり」をテーマに、自分たちの住む地域で災害時に危険となる場所や、避難所、AEDの設置場所など、より身近で具体的な防災について調べてきた。

2、成果と課題

調べ学習や本所防災館での体験、講演会への参加を通じて、災害に関する知識を深め、防災に対する意識を高めることができた。今後の課題は、実際に自分たちの地域で災害が起きた時、どのように行動し、対処することが望ましいのかを自分事として捉え、実践に結び付けていくことである。



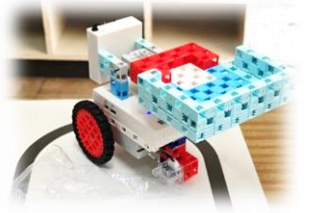
これまでの授業実践

生徒が主体的に課題を設定し、ICTや地域資源を活用して解決に取り組むことで、「協働的な問題解決能力」や「多面的な思考力」を育成することを目指した。

1. 実践からの成果

①協働的な問題解決スキル・ICT 活用力の向上

プログラミングで災害支援カーを走行させる活動を通して、生徒は物資や人員を最適に輸送する方法を試行錯誤し、協働的に意見を出し合う姿勢が見られた。



②地域・企業との連携による学びの深化

中央区役所・消防団・地域住民・PTA と連携した避難所運営訓練を実施。地域資源を活用した防災学習により、生徒は「自助・共助・公助」の重要性を体験的に理解できた。災害支援ナース、NHK アナウンサー、住宅メーカー、高等学校専門学科との出前授業で、災害時の声かけ方法や建築構造、防災デザインの考え方を学習できた。行政・企業・地域・学校が一体となった学びにより、生徒に「社会に開かれた教育課程」の意義を体験させることができた。



③STEAMS 教育の効果

生徒が課題や表現方法を主体的に設定し、STEAMS 型の多角的なアプローチを行うことで、社会課題に対する探究心・自己実現力が高まった。



2. 実践から見えた課題

ツールとしてのプログラミング学習の昇華

初めてプログラミングに触れる生徒が多く、使いこなすための十分な習得時間が難しかった。

生徒へのさらなる意識づけと持続性

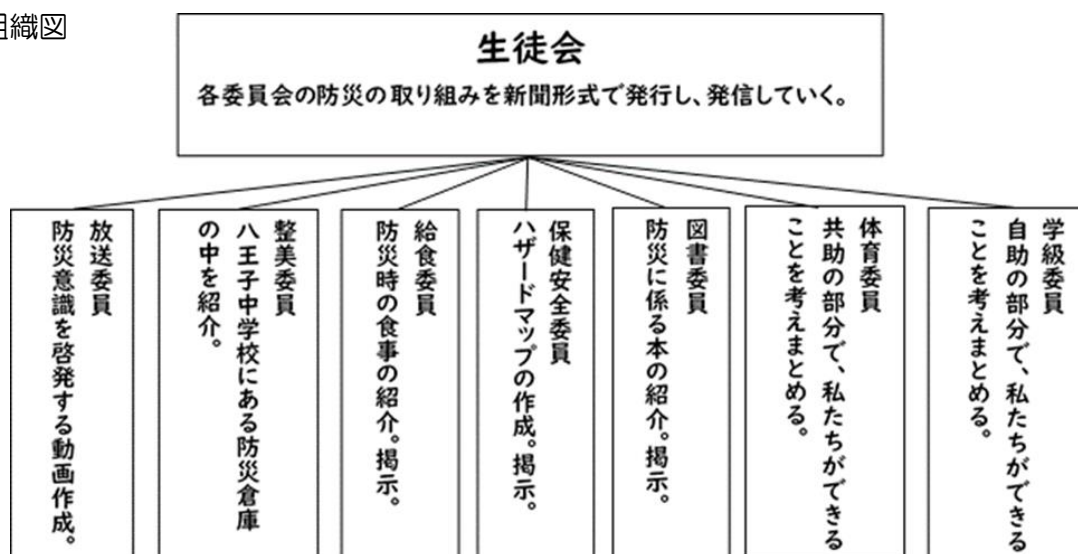
一時的な意識づけにはなったが、実生活での行動までには至っていない。防災教育をキャリア教育や探究学習に接続し、持続的に発展させる必要がある。

(2) 研究の成果と課題

2 データ収集部会

3 学習環境部会

(1) 研究組織図



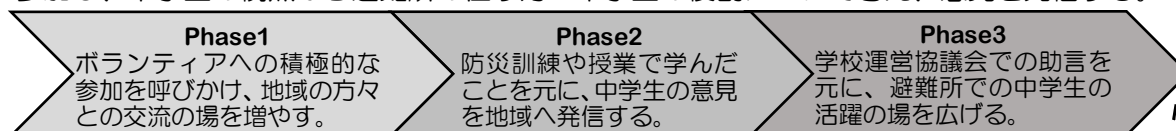
(2) 各生徒専門委員会の取組み

(3) 研究の成果と課題

4 地域連携部会

(1) 研究の概要

生徒会本部役員が「避難所ジュニアリーダー」を目指して、地域の方々とともに防災訓練や学校運営協議会に参加し、中学生の視点から避難所の在り方・中学生の役割について考え、意見を発信する。



(2) 活動実践

全校生徒に「チャレンジ up さいたま」手帳を配布し、ボランティア活動への興味関心を高めた。地域貢献を通して、避難所での奉仕の精神・人間関係の安心感に繋げることができた。(Phase1) 生徒会本部役員が6月8日(日) 中央区避難所運営訓練や7月26日(土) かやの木スクール防災講座に参加し、避難所の実態・課題について学んだ。(Phase2) 10月16日(木) 学校運営協議会で避難所のアイデアを提言し、地域の方々から意見をもらった。八王子中学校区が一体となって避難所運営の更なる向上に取り組んでいる。(Phase3)

(3) 研究の成果と課題

学校運営協議会にて、以下の内容を発表した。生徒会本部役員が避難所の改善点を主体的に考え、発信することができた。一方で、実現に向けての道筋が定まっていない部分が多い。今年度限りの取組ではないため、次代へと引き継ぐ手順を確立させる必要がある。

<中学生ができること>

- ・防災倉庫の備品の運搬、段ボールベッドの設置
- ・環境整備（掃除・ごみ捨て）
- ・小さい子どものお世話

あとかき

ご指導いただいた先生方

さいたま市教育委員会

研究に携わった教職員

【令和 7 年度】

校 長
教 頭
教職員

◎研究主任、○研究推進委員